

～消化器内視鏡スコープについて②～

<特殊な検査・治療で使用する内視鏡スコープ>

通常の上部消化管内視鏡検査や大腸内視鏡検査の他に、特殊な検査・治療を行う際には専用の内視鏡を使用します。

先端に超音波がついた内視鏡スコープや、内視鏡治療に使用するもの、小腸を観察するための専用の内視鏡もあります。今回はそれらのスコープの特徴を紹介していきます！

～超音波内視鏡～

スコープの先端に超音波振動子がついている内視鏡です。これにより**内視鏡的に膵臓や胆嚢などの臓器を観察**できます。また、癌の深達度(深さ)なども診断が可能になります。

この内視鏡は超音波を発生させる装置がついている分通常の上部消化管内視鏡スコープより少し太めで14.6mmです。また検査時間も通常の検査より少し長くなるため、鎮静剤を使用しての検査が基本となります。

～十二指腸内視鏡～

内視鏡の**レンズの位置が側面についているスコープ**です。通常の上部消化管内視鏡検査用スコープはレンズが先端についています。このスコープは主に ERCP という胆管や膵管の検査や処置の際に使われます。

太さは12.6mmで、このスコープも通常の胃カメラで使用する内視鏡スコープより太いです。この内視鏡は主に内視鏡治療の場合に使用されるので、入院の場合になります。治療になりますと、当然時間がかかるため、原則しっかりと鎮痛剤・鎮静剤を使用して行われます。

～カプセル内視鏡～

この内視鏡は名前の通り、カプセル型の内視鏡です。**主に小腸の観察に使用されます**。小腸は全長 7、8メートルほどあり通常の上部消化管内視鏡や大腸内視鏡では全てを観察することができません。そのため小腸の観察はカプセル型の内視鏡を飲み込んで観察します。

カプセルの大きさは 20mm ほどで、少し大きめの錠剤くらいのイメージです。飲み込んだカプセルは小腸を通過する中でたくさんの写真を撮影し、最後はそのまま便と一緒に排出されます。撮影された写真はデータとして転送され、後日読影・解析します。